

全国から寄せられたお便り



● 3・11を前後して、福島避難解除のニュースや自ら命を絶たれる方が急増していることなどを知り、自分ができることの一つとして署名を訴えました。これからも子どもたちのために、未来のためにがんばり通してください！！ 応援しています！

● ますます苦難を強いられる福島の方々に胸が痛み、安倍政権への怒りでいっぱいになります。何もできませんが、せめてと周辺で集めた署名を送ります。いつも応援しています。

● 普通の幸せな生活を奪われた方々の憤り、不安を思うと、本当に心が痛みます。せめて被災されたすべての方々、自主避難を選択された方々が平等に補償を受け、子どもたちの甲状腺検査が継続的に行われますよう願っています。

● 私も会津出身のものです。皆様の署名運動に、同意するとともに、いろいろな運動をしてくださる皆様方に感謝いたします。

● 友人から預かった署名用紙をコピーして集めました。79人分送ります。諦めずに声を上げ続けていきましょう。

● 地域や大学で集めた署名 285 筆を送ります。「福島から声をあげなければ」という思いに私たちも勇気づけられています。国策や利益よりもいのちが大切にされる世の中をつくるために、ともにがんばりましょう！

● わずかな筆数ですが、礼拝で呼びかけて集めました。

①職場、地域、学校などで署名を広げてください

署名用紙はふくしま共同診療所のホームページよりダウンロードできます。「被曝帰還反対」で検索してください。集まった署名は、随時、福島県に提出しています。

②全国各地の避難者に署名運動を知らせてください

全国各地に、避難者であることを周囲に打ち明けられずに悩んでいる方がたくさんおられます。署名運動は避難している人々の勇気になります。また、ふくしま共同診療所では全国各地で報告会を開催しています。講師派遣など、ふくしま共同診療所までお問い合わせください。

③署名運動を広げるためのカンパをお願いします

【郵便振替】 02280-7-121547 被曝と帰還の強制反対署名運動

被曝と帰還の強制反対署名運動

【呼びかけ人】市川潤子（ふくしま合同労組委員長）、佐藤幸子（福島診療所建設委員会代表）、椎名千恵子（NAZENフクシマ・ふくしま保養交流会世話人）、鈴木光一郎（全国農民会議共同代表）、橋本光一（動労福島委員長）、布施幸彦（ふくしま共同診療所院長）、吉沢正巳（浪江町・希望の牧場代表）

【連絡先】〒960-8068 福島市太田町 20-7 佐周ビル 1 F ふくしま共同診療所

TEL:024-573-9335 MAIL:fukukyocli@ark.ocn.ne.jp

被曝帰還反対

検索

被曝と帰還の強制反対署名

ご協力おねがいします

甲状腺エコー検査の縮小

避難指示解除と帰還の強制

避難者への住宅支援打ち切り

絶対反対

国は、3月31日から4月1日にかけて帰還困難区域を除く地域の避難指示を一方向的に解除し、福島県は「自主避難者」への住宅全額補助を打ち切りました。それどころか、「避難は自己責任」「震災が東北でよかった」（今村・前復興相）などという暴言が繰り返されています。絶対に許すことはできません。

すでに避難指示が解除されている地域では、いまだに8割をこえる住民が帰還していません。そのようななか、楡葉町と南相馬市小高区では4月から学校を再開するとともに、「町に帰ってこない職員は、昇給・昇格させない」（楡葉町長）と職員への帰還圧力をかけています。16年度だけで9人の福島県の自治体職員が自殺に追い込まれています。その背景には、職員や家族の生活と帰還強制政策との板挟みになっている葛藤があるのではないのでしょうか。

住宅補助を打ち切られた「自主避難者」は、福島に戻って被曝しながらの生活を我慢するのか、避難を継続して経済的困窮に追い込まれるのかという厳しい選択をこれからも迫られ続けます。原発事故の一切の責任は国と東電にあります。

国と東電に、福島県内外のすべての被災者の生活と健康を保障させましょう。全国各地で避難者をつなぎ、守る運動を強めましょう。各自治体の首長に働きかけることはもとより、労働組合にも働きかけ、ともに闘っていく運動を強めるときです。戦争も原発もない社会をつくっていくためにも「被曝と帰還の強制反対署名」の取り組みの継続と拡大をよびかけます。

被曝と帰還の強制反対署名運動呼びかけ人 / ふくしま共同診療所院長 布施幸彦